



ぜん息がひどくなると、 どうなっていくのでしょうか？



気道が狭い状態のまま元に戻りにくくなり、重症化を招きます。

やけどをした場合、ごく軽いものであれば、1週間ほどであとも残らずにきれいに治ります。しかし、水疱ができるような強いやけどの場合、傷あとが残ってしまうこともあります。このたとえと同じことが気道にもあてはまります。気道の炎症が続くと、炎症によりダメージを受けた気道の組織は、完全にはもとどおりに治らず、変形してしまうことがあります。これを「気道のリモデリング」といいます。

リモデリングが起こると、気道壁が厚くなって気道の弾力性がなくなり、気道が狭い状態のままもとに戻りにくくなってしまいます。そのため、呼吸機能が常に低下した状態となり、重症化を招いてしまいます。

まだ解明されていない点が多いものの、ひとたび気道のリモデリングが起これば、回復は難しくなることがわかっています。最近では、乳幼児でも早い段階からリモデリングが起きているという報告もあります。ですから、リモデリングを起こす前の軽い状態のうちに、できるだけ早く炎症を抑える的確な治療を続けていくことが大切になります。

